



発行 ● 狛江市政策室
〒201-8585 狛江市和泉本町1-1-5
☎3430-1111 FAX3430-6870
Email=wacco@city.komae.lg.jp

編集・制作 ● 特定非営利活動法人 k-press
〒201-0003 狛江市和泉本町1-35-3
ル・ミリオン・イダ3階A号
☎3430-6617 FAX3430-6743

2022
令和4年

誌面に掲載した記事・写真等の無断複製・転載等はお断りします。
お問い合わせ・ご意見は狛江市政策室へ

重度身体障がい者の生活支援

特定非営利活動法人 あすなる

障がい児の親たちが設立

特定非営利活動法人あすなる(大西誠子理事長☎3489-5257)は、在宅福祉サービス事業を通して障がい者が地域で自立した生活が送れる社会の実現を目的に活動している。

同会は、都立府中養護学校に通う重度身体障がい児の親たちが子どもが地域で楽しく過ごせるように昭和55年に設立した「あすなる会」が母体。平成7年に明治大学と成城大学の赤十字奉仕団などのボランティア

学生と関わり、現在も両校の学生ボランティア10数人と障がい児・者が定期的にレクリエーション、外出、調理などの余暇活動を活発に行っているのが特色。

15年に特定非営利活動法人となり、16年に戸建て住宅を借りて居宅介護事業ライフケアさんさん(元和泉1-15-16☎3489-5257)を開設、身体介護・家事援助などの居宅介護、重度訪問介護、移動介護などのヘルパー派遣事業を始めた。17年から家族と離れヘルパ



ライフケアさんさんの利用者たち

と生活する訓練の場として定員1人の短期入所(ショートステイ)事業を開始、22年に定員を2人に増やした。

Zoomで大学生と交流

同会の登録会員は20人で、スタッフはヘルパーを含め15人。会員は生活支援施設などに通うほか、仲間とショートステイを利用した



▶11<

り、学生との交流を楽しんでいる。毎月1回催していた学生ボランティアによる余暇活動は新型コロナウイルス感染症拡大で一時中断していたが、令和2年10月からZoomを使った「オンラインあすなる」を行っている。

同会では、短期入所事業に力を注ぐほか、長年の懸案であるリフト付き浴槽などを備えた重度身体障がい者グループホームの実現を目指している。

障がい者に働く機会を提供

一般社団法人 陽向会

「ワークひなた」を運営

一般社団法人陽向会(青木博行代表理事、岩戸北1-7-9コミュニティ・トーケン107☎5761-8408)は、一般企業では就労が困難な障がい者に働く機会を提供し、労働を通じて社会参加、社会性の再構築、社会復帰の支援に必要な訓練を行い、心のよりどころとし

て個人が生きがいや自信を持ち、社会・仲間・人とのつながりを大切に感じ、地域で豊かな社会生活を送ることを目的に平成29年に設立、福祉サービスの就労継続支援B型事業所「ワークひなた」を運営している。

多様な仕事を受注

30年にオープンした「ワークひなた」は、身体・知的・



ワークひなたで作業に励む利用者

精神のいずれかの障がいのある人が対象で、現在20代半ばから60代前半の13人が登録している。利用時間は午前9時から午後4時だが、利用する人の心身状態に応じた利用日時に配慮している。

仕事は、自主製品のオリ

ジナルクッキーの製造販売のほか、企業から受注した金属部品加工、カードケースの組立、海外への荷物の発送代行、缶バッチや壁掛けタイプのカレンダーの製作などバラエティーに富んでいる。

4人のスタッフが利用者へのきめ細かな対応に心がけている。

また、仕事だけでなく月ごとの茶話会や季節ごとに行事を通して利用者同士のコミュニケーションを深めている。

障がい者の就労や自立を支える

特定非営利活動法人 NPO 狛江さつき会

障がい者の家族会が母体

特定非営利活動法人NPO 狛江さつき会(高橋正隆代表理事、岩戸北1-1-6-301☎3430-5221)は、それぞれの障がいを尊重しながら、主に生活障がいを抱えている人の自立を支援し、誰もが一人の市民として尊重され、共に生きる社会の実現を目指している。

同会は、昭和63年に精神障がい者の家族が共同作業所の開設を目的に設立した「狛江精神障がい者家族会(さつき会)」が母体で、平成元年の「ワーク・イン・

たまがわ」を皮切りに作業所やグループホームを順次開設、平成15年に特定非営利活動法人の認証を受けた。

カレーショップなどで作業

現在は就労支援事業所メイ、グループホーム朋、地域生活支援センターリヒトなどを運営している。

就労支援事業所メイは2カ所にあり、ワークイン・メイ(元和泉2-35-1あいとぴあセンター3階☎3480-8187)では自主製品のパウンドケーキやマーマレード作り、野菜などの農園作業、

軽作業に加え、ヨガやレクリエーション活動を行っている。現在は24人が登録、スタッフ3~4人からサポートを受けて利用している。

カレーショップ・メイ(東和泉4-1-7-101☎3480-3468)では3種類のカレーとハヤシライスをワンコインで販売。現在20人が登録し、調理や食器洗いなどの厨房作業、ホールの接客、営業・配達、清掃、事務などをスタッフ3~4人からサポートを受けながら作業を行っている。

地域生活支援センターリヒト(元和泉2-35-1あいとぴあセンター3階☎3480-



カレーショップ・メイの厨房

6656)は、16年に市の委託事業として開設された地域活動支援センターで障がい者の様々な相談や支援、フリースペースの運営やイベント、病院からの退院支援、見守り訪問などを行っている。

グループホーム朋(☎3480-0955)は障がいや病気のため1人でうまく生活できない人が、共同生活を通じて地域で自立して生活できるように支援している。2カ所にあり、定員11人。

障がい児向けに様々なデイサービス

特定非営利活動法人 ハッピーライフフォーエバー

障がい児の母親らが設立

特定非営利活動法人ハッピーライフフォーエバー(岡田欣重代表理事、和泉本町4-7-27-103☎5497-7343)は、障がいのある人やその家族が、地域社会の一員として自分らしく暮らせるよう、障がいの有無や種別、程度などを問わず受け入れ、様々な形態の支援事業や政策提言、社会啓発などを行っている。

同会は、肢体不自由重複障がいのある子を持つ母親らが放課後と長期休業中の子どもたちのために地域で

様々な活動を行う拠点として平成7年に設立した。当時は市内の多摩川河川敷や目黒区碑文谷公園で障がい児乗馬会を催した。

9年に現在の場所で地域デイグループ事業を行う「はっぴいハウス」を開設、放課後や長期休業中の子どもたちが楽しめる活動、あいとぴあセンターでプール活動などを実施している。

14年に特定非営利活動法人となり、24年に児童福祉法に基づく放課後等デイサービス事業に移行、26年に障がいを持つ未就学児を受け入れて児童発達支援を

行う多機能型事業所となった。さらに18歳で卒業したOBの支援が必要と考え、同年に障害者総合支援法に基づいた居宅介護・重度訪問介護・同行援護、地域生活支援事業の移動支援事業を始め、大学や生活介護事業所に通う卒業生の入浴介助や食事介助などの居宅介護を行っている。

放課後に自由遊びや工作

放課後に自由遊びや工作

放課後等デイサービスは、小学生から高校生が対象で、週5日午後、長期休みは午前から午後に子ども



放課後等デイサービス (写真提供:ハッピーライフフォーエバー)

散歩、工作、週2回の音楽療法のほか、理学療法士によるリハビリ指導、言語聴覚士による摂食指導及びコミュニケーション力向上のための指導などを行っている。児童発達支援は週5日午前中に音楽療法などを行っている。定員は10人で、13人のスタッフがほぼマンツーマンで対応している。岡田理事長は「今後は身体に障がいを抱える人のためのショートステイを始めたい」と話している。